



鴻巣西中通信

学校だより No.3

学校教育目標 「心豊かで たくましい 西中生」
公式ホームページ <https://konishi-j-konosu.edumap.jp/>

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和7年6月3日

「支え」があって、今がある

校長 三杉 紀文

梅の実が色付く季節となりました。大型連休を経て、新年度から2ヶ月が経ち、生徒たちも全体としては新しい学年や学級の生活に馴染んできたように感じられます。

5月はゴールデンウィークが明けてからテスト期間に入り、中間テストの実施、その後10日あまりで体育祭と、大変慌ただしい日々となりました。特に体育祭は、天候や気温の上昇なども気になる場所でしたが、お陰様で本校第46回目となる体育祭を無事に開催することができました。PTAをはじめ、ご支援・ご協力をいただいた保護者、地域の皆様にも、改めて感謝申し上げます。

さて、この体育祭の開催にあたっては、大きく2つの「支え」を感じました。1つ目は、生徒たち自身による「支え」です。「西中PRIDEソーラン」は4月のソーラン隊長オーディションに始まり、特にソーラン隊長は朝・昼と練習。4月末からは学年全体での練習も始まりました。この全体での練習は、教員ではなく、主に隊長たちが中心になって全体に指示を出していきます。全体を動かすのは大変なことから、隊長たちは手本を示すなど懸命に考えながらの練習です。また、各種目の練習も5月の連休明けから、昼休みに生徒たちの自主的な練習が始まりました。特に、各学年種目やリレーのバトンパスなどは、練習をしていないと、なかなかスムーズにできません。たとえば、大縄跳びは、最初は5回も跳べません。では、どうしたら多くの回数を跳べるようになるのか。学級ごとに試行錯誤が繰り返されます。時には、失敗が続いて気持ちが下がってしまうこともあります。それでも、互いに声を掛け合って気持ちを切り替え、試行錯誤の末にコツをつかむと、記録は伸びていきます。そして、体育祭当日は、自分たちがやってきた練習の量や工夫、その過程で練り上がってきた集団の雰囲気などを「支え」として、本番の競技に臨みます。体育祭当日のドラマは、こうした過程、「支え」があったからこそ、生まれたもののはずです。

2つ目は、保護者・地域の方々の「支え」です。たとえばゴールデンウィーク中には保護者・地域の方のご厚意で、野球グラウンド側の校庭の雑草を大型機械で除草していただいたということがありました。自然に雑草がなくなったり、環境が整ったりしているのではなく、こうした面を手掛け、支えてくださっている方々のおかげで、きれいに保たれているのです。

「支え」のおかげで今があることに、改めて感謝します。

